

令和3年度 第9号 (203号)

立ろうだより



令和3年12月1日 発行  
東京都立立川ろう学校  
校長 村野 一臣  
〒190-0003  
東京都立川市栄町1-15-7  
電話042-523-1358  
ファクシミリ042-523-6421



## 道徳地区公開講座（公開授業）



校長 むらの 村野 かずおみ 一臣

令和3年度の流行語等が話題となる時期となりました。令和3年また2学期も残り1か月となりました。緊急事態宣言解除後、感染状況は落ち着いています。12月になり、都のガイドラインに沿って、引き続き感染予防の観点から時差通学は継続することになりました。インフルエンザも心配な季節ですので、基本的な感染予防の徹底をお願いします。

さて、11月には、9月から延期になりました「道徳公開授業」を実施しました。道徳は、小学部は平成30年度、中学部は平成31年度から「特別の教科 道徳」として教科書もできました。いじめ問題の深刻化や対人関係の希薄さ等から、思いやりや規範意識の醸成やソーシャルスキルを育成する必要性等を背景として、「特別の教科」として位置付けられました。

それでは、道徳科ではどのようなことを学ぶのでしょうか。中学部の教科書では、「よりよい生き方って、どんなものでしょうか。それを考えていくのが、道徳科の時間です。よりよい生き方について22のキーワードで考えていきます」となっています。ここでのポイントは、「キーワード（を）学習する」のではなく「キーワード（で）学習する」ということです。キーワード（内容項目）の学習を通して、いろいろな見方や考え方があつこと気づき、自己を見つめ、自分で考えて判断できる心を育てていくというイメージです。生活場面では、「これはしてはいけない、こうなさい」と諭すことはありますが、道徳科では物語の人物の気持ちを理解したり、自分に置き換えて考えたりすることを大事にしています。例えば、小学校1年生の「はしの上のおおかみ」という題材があります。あらすじは、『一本橋をおおかみが渡ろうとしています。うさぎやきつね、たぬきが通ろうとすると、「もどれもどれ。」とどなって自分が先に通りました。ある日、おおかみがいつものように渡ろうとするとおおきなくまが渡ってきました。おおかみは下がって譲ろうとしましたが、くまは、おおかみを持ち上げて後ろにそっと下ろしました。次の日、おおかみはうさぎにも同じように体を持ち上げて、後ろにそっと下ろしました。不思議なことにおおかみは前よりずっといい気持ちでした。』キーワードは「親切、思いやり」となります。授業では、橋を渡るシーンを寸劇にして体験します。親切の行動を教えるのではなく、おおかみの気持ちになって、気持ちの変化に気付くことを大切にします。問題解決を目的としていないので、様々な状況を自分で受け止めて終わるのが道徳科の特色です。終わり方がなんとなくもやもやした感じのように見えますが、自分で考え、自分を見つめ、他の友達の意見を聞いたり、話し合いをしたりして、内容理解を深めていきます。幼稚部でも劇遊びや話し合い活動なども、道徳科の授業形態と同様な場面があります。先生が結論を出すのではなく、生活の場面で生かせるよう行動に導いています。

御家庭の中でも、しつけの部分とは異なり、道徳科の授業などを話の基に、「そう考えたんだ」とか、「私はこう思うよ」など、子供を励まし支える会話が弾み、子供の心に寄り添うことができれば素敵だなと感じています。師走は、まさしく疾風怒涛の如く過ぎていきます。心に余裕をもちたいです。